

# 大牟田市立天の原小学校

## 1 本校のESDの特徴

本校は、校区を諏訪川の支流である野間川が流れることと、校区内に大牟田特別支援学校や「ケアハウス やぶつばき」があること、さらに校区の見守り隊の方々による毎朝・夕の交通安全・挨拶指導の充実と「天ちゃんクラブ」による朝の読み聞かせの実態より、環境教育と福祉教育の2本立てで総合的な学習の時間を構成してきている。

ユネスコスクールに加入し、海洋教育推進モデル校となってからは、環境教育の中核に海洋教育も取り込んでいる。

## 2 ユネスコスクールとしての活動・全体計画

本校教育目標「志を持って、自ら学び、心身を鍛え、人間性豊かな子どもを育てる」を達成するために、「将来にわたって、持続可能な社会を構築するために一人一人が環境と深いつながりがあることを知り、身近な環境を大切にすることを育てる」とユネスコスクールの目標を定めて計画を立て、実践を重ねている。

重点目標として、「自然愛護」「資源の有限性・再利用」「環境汚染問題・環境保全」「身近な世界文化遺産の保全・保護」の4点を視点に、学び方の育成に重きを置いて各学年の単元および学習活動を構成している。

中・高学年では、総合的な学習の時間を中核に、海洋教育と福祉交流の2本柱で活動を構成している。

海洋教育では、諏訪川の中流域に位置することより、「森・川・海をつなぐ海洋教育」という立場・視点で活動を構成している。

また、福祉交流活動では、3年生～5年生まで段階的に大牟田特別支援学校小学部との交流（ゲーム、七夕飾り・七夕会）を行っている。

## 3 特徴的な活動事例

### (1) 海洋教育の取組

導入期となる3年生では、「海に親しむ」ことを目標に、有明海の海辺の生き物とのふれ合いを行っている。今年も、6月に有明海へ行き、GT「有明海を学ぶ会」の方々より有明海の生き物を紹介して頂き、生き物探しを通して有明海に親しみながら興味・関心を高めることができた。

4年生では、「海を知る」ことを目標に、世界遺産である三池港から船に乗り、有明海から干潟や海岸を眺める学習を行った。ここで、海上清掃船「海輝」を見学し、有明海のゴミについて課題意識を持つことができた。その後、海岸の清掃活動を通してゴミは川から流れてくるのではないかと見通しを持つことができた。

5年生では、4年生での課題と見通しをもとに、校区に流れる諏訪川の支流「野間川」の環境調査を行った。子どもたちは、GT（市役所の環境保全課）の方々と川に入り、生息する水中生物を捕獲して調べたり、上流と中流の水の透明度検査やCODパケットテストをしたりして見通しの妥当性を追究していった。川の汚れが海の環境悪化につながることを認識し、地域への発信や自身の行動化の必



要性を実感した。また、川・海と森をつなげる観点から、森林の役割についても学んだ。

6年生では、世界の環境問題である「地球温暖化」を有明海の環境保全とつなげて、その影響について調べた。まず、温暖化のメカニズムについて調べ、原因が自分たちの生活と密接につながっていることを再認識することができた。次に、教室に「省エネナビ」を設置して電気の使用による二酸化炭素排出量を測定して節約の必要性を感じていた。

さらに、GT（市役所の環境保全課）の方々とともに市内岬町の塩性湿地へのフィールドワークを行い、干潟の絶滅危惧種の現状の様子を知り、危機感をもつことができた。

ゴミのポイ捨て禁止や節電を呼びかけるポスターや葉を作成して、様々な発表・交流の場で手渡ししながら理解と協力を呼びかけることができた。主体的な清掃・節約活動にも期待したい。



## (2) 福祉（交流）教育の取組

今年も3・4・5年生で、大牟田特別支援学校との交流学习を行った。

3年生では、「みんなで遊ぼう」交流を特別支援学校で行った。総合的な学習の時間「障がいのある方の気持ちを知ろう（視覚）」の発展学習として取り組むことで、3ヶ年の交流学习の第一歩に十分な学習内容となった。

4年生では、「七夕飾り」交流を行った。昨年度の「七夕飾り作り」と「七夕会」を一つにまとめたものである。2度目の交流ということでスムーズに交流することができていた。

5年生では、「なかよし」交流と題し、3年生とは反対に本校に招待して自案・自作のゲームを展開するものであった。2年前の交流の振り返りや、校内でのチャレンジ集会（児童ロング集会）での経験を活かして、楽しい交流会にすることができた。

これらは、来年度以降も継続していく予定である。



## 4 本年度の成果と課題

### ○成果

- ・海洋教育への取組も3年目となり、単元および活動構成が深まるとともに、児童にとって有明海が身近で大切なものとなりつつある。これにより、児童に学習時の主体性や知識・技能の高まりが見られるようになった。
- ・特別支援学校（小学部）との交流により、自他の大きな違いも当たり前を受け止めることができる児童が広がっているように、日常の言動や居住地交流より感じるができる。

### ○課題

- ・海洋教育は単元および活動構成に教師の主導性が強く、発表時の言葉や意味のとらえ方が十分に児童のものになっていない。より主体的に調べたり計画したりできる教材開発の必要性を感じる。
- ・4年生は「七夕飾り」交流のみとなってしまったため、事前に宮原中生徒と特別支援学校児童により作られた飾りを飾るのみで、お客さんの意識での交流に終わってしまった。来年度は、開催時期による暑さ対策に配慮しながらも「七夕飾り作り」と「七夕会」の2本立て交流に参加できるようにしていきたい。